

「かごしま景観学習」について

「かごしま景観学習」は、子供たちが本県の個性豊かで魅力あふれる景観の大切さに気づき、郷土に対する誇りを持つことを目的に、平成28年度から県内各地の小学校で講師の先生にも御指導いただきながら実施されています。星原小学校では、令和4年度から学習をはじめました。

星原小学校 令和4年度の取組

講師の先生から小学校周辺に残る景観とその背景について学び、身近な景観を自分達で写真撮影し、「中種子マップ」にまとめました。また、家庭科の学習と併せて、学校の目の前にある「雄龍雌龍の岩」付近の海岸清掃を行いました。2時間にわたる清掃活動で10袋以上のゴミが集まりました。



浜本麦先生を講師に迎え、まずは、「景観学習」とはどんな学習なのかを学びました。

写真を見ながら気づいたことを発表したり、浜本先生から説明を聞いた中で、初めて知ることがたくさんあり、自分達で種子島についてもっと調べたくなりました。



東川隆太郎先生を講師に迎え、種子島の景観について学びました。種子島に住んでいる私たちが当たり前だと気にもとめていなかったことが、他の地域に住んでいる方から見ると、素晴らしいことだったり、珍しいことだったりすることに気づかされました。

そこで、令和4年度は、自分達が住んでいる一番身近な中種子町について、詳しく調べていくことにしました。



星原校区の東芳洋さんにタブレットを活用した写真の撮り方を指導していただきました。



集めたゴミを見ると、遊びに来た人が落とした物や海流によって流されてきた物がありました。

2月には、5・6年生が取り組んできたことや中種子町の景観の素晴らしさを他学年にも伝えました。



下級生が熱心に聞いてくれたので、説明にも力が入りました。

種子島の景観をみんなで守っていくために、自分たちにもできることがあると気づくことができました。